

 <p>SSC</p> <p>～ともに生きる社会をめざして～ 第156号</p> <h1>完全参加と平等</h1>	<p><b>編集</b> NPO法人 埼玉県障害者協議会 編集責任者 田中 一 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1 埼玉県障害者交流センター内 TEL 048(825)0707 FAX 048(825)3070 メールアドレス ssk080321@bz03.plala.or.jp</p>
	<p><b>発行</b> NPO法人 埼玉障害者センター 〒330-8522 さいたま市浦和区大原3-10-1 埼玉県障害者交流センター内 TEL・FAX 048(833)7027</p>
<p>障害を理由とする差別をなくし、障害のある人もない人も分け隔てられることなく、お互いに人格と個性を尊重しながら、地域の中で共に手を取り合って暮らすことのできる社会、心のバリアをなくすことで障害のある人もない人も全ての人が参加しやすい社会『共生社会』を考える事が大切です。</p>	<p><b>発売日</b> 毎月10日、20日、30日</p> <p><b>定価</b> 一部 100円(購読料は会費に含まれます) (共同募金からの助成金の一部で作成しています)</p>



## 2025 年頭のごあいさつ

特定非営利活動法人 埼玉県障害者協議会 代表理事 田中 一

### ● 2025 年は創立 45 周年の節目の年

新年あけましておめでとうございます。

昨年2024年は、元旦に発生した能登半島地震、9月の豪雨災害と複合被災に見舞われました。一年を経過したいまでも復興は道半ば、まだまだという現状ではないでしょうか。被災された方々が自分らしい暮らしを取り戻すまでには長い道のりが必要であると実感します。

また、昨年7月旧優生保護法は明確に憲法違反であると最高裁は判決を下しました。内なる優性思想と向き合い、克服する努力をこれからも続けていくことが求められています。

さて、今年2025年の干支は巳年です。「蛇年」は十二支で「巳年」と表記されます。自らの皮を脱ぎ捨て、新たな姿に生まれ変わる様子から巳は「再生」の象徴とされています。当協議会も45周年という節目の年に当たります。共に生きる社会を目指して、加盟40団体とともに埼玉における障害者福祉の充実、前

例にとらわれずさらなる飛躍発展の年にしたいと考えております。

2025年が皆様にとって晴れやかで希望に満ちた年となることを心より願っております。

### ●「心のバリアフリー」「共生社会」「合理的配慮」について思うこと

私は地元の小学校で4年生を対象に、車いすユーザーとしての体験をもとに福祉教育の授業を一昨年から行っていますが、「心のバリアフリー」「共生社会」「合理的配慮」について下記のようなことを体験を交えてはなします。

4年生には少し理解しづらい内容かもしれませんが……。

- 「心のバリアフリー」とは、様々な心と身体障がいや考え方を持つすべての人々が、お互いに理解を深めようとコミュニケーションをとり、支え合うことです。
- 障がいがあることがバリアなのではなく、障がいのある人も含めて、すべての人に配

慮していない社会や環境にあるバリアをなくしていくことが大切です。

- ・「共生社会」とは、障がいを理由とする差別をなくし、障がいのある人もない人も、みんな平等に、お互いに人格と個性を尊重しながら、地域の中で、共に手を取り合って暮らすことができる社会のことです。
- ・心のバリア（障壁）をなくすことで、障がいのある人もない人もすべての人が参加しやすい社会をめざすことです。

- ・合理的配慮とは、障がいのある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要としているとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応しなければならないことです。

「心のバリアフリー」「共生社会」「合理的配慮」などの言葉が必要ない社会を目指して一歩一歩着実に歩みを進めていくことが私たちに課せられた役割であると思っています。



## 第18回「塙保己一賞」表彰式・記念イベント開催

令和6年12月21日（土）に本庄市児玉文化会館（セルディ）ホールにて、第18回塙保己一賞表彰式・記念公演が開催されました。

塙保己一賞は埼玉県本庄市に生まれた「塙保己一」のように、障害がありながらも不屈の努力を続け社会的に顕著な活躍をしている人や、障害者を献身的に支援している人を表彰するものです。埼玉県主催・本庄市共催で毎年開催され、当埼玉県障害者協議会もこの塙保己一賞を後援しています。



第18回塙保己一賞大賞は本間律子氏（日本社会事業大学学長室多心型福祉連携センター研究員。社会福祉法人聖明福祉協会会長秘書兼生活相談員）、奨励賞は稲木良光氏（プロコントラバス奏者）、貢献賞には佐久間侶男氏（東京ダイバーシティライオンズクラブ会長）がそれぞれ受賞され、表彰式では賞状と記念品として塙保己一のブロンズ像が授与されました。

表彰式に引き続き開催された記念公演では、子ども劇団による群読劇「世のため後のため塙保己一物語」で塙保己一の生涯を子どもたちが熱演しました。





# 令和6年宿泊研修報告

日本オストミー協会埼玉県支部 かつさい まこと  
葛西 誠



コロナの影響で4年間中止していましたが秋の一泊研修旅行を10月22日～23日に、男性13名、女性10名、総勢23名の参加者で実施しました。

宿泊先は、従来と同じ伊豆潮風館で、立ち寄り先は、行きは「小田原城・小田原城址公園」、帰りに「伊豆パノラマパーク」の行程を無事予定通り実施出来ました。参加された皆様には心から感謝申し上げます。

新に役員に就任された並木孝夫さんに、初めて研修旅行に参加された感想を、旅行記として書いて頂きました。

## 秋の一泊研修旅行に参加して

なみき たかお  
並木 孝夫



埼玉県障害者交流センターに9時集合、伊豆潮風館の送迎専用のバス「さわやか号」に乗車出発しました。バスの中では、今回初めての参加又久しぶりに参加する人で自己紹介、その後は仲間同士で楽しい雑談しました。

首都高から東名高速道、小田原厚木道路を経由し、楽しみのひとつ昼食です。小田原鈴廣（かまぼこの里）で金目鯛の炙り飯膳を美味堪能しました。昼食後は、小田原城・城址公園の散策、天守閣の最上階にある展望デッキからは、360度の大パノラマで小田原の街並みや遠くの相模湾、箱根の山々を一望できました。

小田原城を後に、目的地、伊豆高原にある「伊豆潮風館」へ向い、ホテルには15時40分に到着しました。到着後、目的のふたつめ、温泉入浴体験、皆さんオストメイトなので特に問題なく、大きな風呂でゆっくり湯船に浸かれました。これからもオストメイトとしてのマナーを守り、色々な入浴施設に行ってみたいと思いました。



交流会は、佐久間副会長、障害者協議会代表理事田中様のご挨拶、参加者の最年長（89歳）、役（エン）様の乾杯で始まりしました。美味しい食事を賞味しながら、自慢の歌声（カラオケ）が始まり楽しいひと時を過ごしました。二次会は本格的なカラオケ大会を楽しんだ後、最後に参加者全員で「彩の国小唄」を歌い本日のメとなりました。

…うらへ続く…

翌早朝ホテルの周辺を散歩、周辺は伊豆高原らしくリゾートホテルが建ち並んでいました。

ホテルを9時に出発し、伊豆スカイライン・伊豆中央道に乗り、本日の目的地、「伊豆パノラマパーク」へ向いました。伊豆パノラマパークでは、ロープウェイに乗って標高463mの山頂へ、小雨のため、残念ながら富士山が見えませんでした。雲の隙間から日が差し、山頂できれいな虹が眺望できました。昼食は東名足利SAで各々美味しい食事を頂き、帰路は東名高速道路、途中海老名SAで休憩、車内では、各々のプチ自慢・近況報告がありました。



オストメイトになっても、元気に趣味や旅行・仕事に活躍されていることが聞け、私も活力をいただきました。2日間、本当に楽しい時間を頂きありがとうございました。来年もこのような宿泊・研修会を実施していただき、皆様と再会できることを祈念し散会しました。



初めての参加で、オストメイトになり、当初は日々不安の日が続きました。諸先輩方の苦勞した話、楽しかった事、また貴重な情報交換ができたこと。又、たくさんの魅力的なオストメイトの仲間たちに出会って、世界が広がりました。

**編集後記** 障害者問題との関わりはもう50年、障害者人権条約があるとはいえ、排他的思想が沁みついている私たち。それが隣国人へのヘイトに繋がり、外国人に「ああいうのが多くなると治安が悪くなる。」の声にいつしか同調してしまう。良く、外国人の犯罪がニュースで流れる。「やっぱり」と思う。川口のクルド人の取材を続ける記者の講演。「外国人の犯罪が増えているというが、県警は外国人の犯罪は増えていない」。では、ニュースか？ニュースをつくらせている私たちか？恐ろしい話です。〈國松〉